

注意点

1. トランジスタは、2種類あります。どちらも同じ形なので、間違わないでください。
もし、間違って違うトランジスタを挿しても動作しますが、性能はとても悪くなります。
2. ダイオード(D2)の極性を反対に接続しても動きますが、この場合も、パワーが出なくなり、スプリアスも増えますので注意してください。

端子接続

端子名	説明	備考
6V	電源 +6V 入力	+6.2V 以上は発振器(SG-8002)が壊れます。
GND	電源 グランド	
AT	アンテナ	
AG	アンテナ グランド	
K1	キー入力(+)	TTL レベルでの制御も可能
K2	キー入力(-)	
RA	受信機アンテナ	受信機のアンテナ入力に接続
RG	受信機アンテナ グランド	
F1	内部発振器の選択	通常は、F1 と F2 を短絡 (次ページ参照) 外部 VFO を使用するときは、F2 と F3 に接続します。
F2	外部 VFO の選択	
F3	外部 VFO グランド	
S1	発振器単独動作スイッチ	通常は、S1 と S2 を短絡 (次ページ参照) 開放にすれば単独発振します。
S2	発振器単独動作スイッチ	
U+	ユニバーサル部分への電源+	ユニバーサル部分を利用するときの電源として使ってください。
U-	ユニバーサル部分への電源-	

電源

電源は、6V 固定です。6.2V 以上を与えると発振器(SG-8002)が壊れます。

そのため、外部 VFO を使い SG-8002 を外せば、もっと高い電圧でパワーを出せますが、マイクロインダクタ(L1～L4)の許容電流(約 300mA)に気をつけてください。

下限は、実験では、3V ぐらいから動作していますが、発振器(SG-8002)の定格電圧を大きく下回っているので、おススメはできません。

電池

電池はアルカリ乾電池を使ってください。

マンガン乾電池だと、電池の内部抵抗が大きいので、送信時の立ち上がりが遅くなり、「ピューン」と受信側で聞こえます。